

創立50周年 記念誌 *Since 1974*

学校法人九曜学園

専門学校 川崎リハビリテーション学院

創設者



川崎学園創設者
川崎 祐宣



九曜学園創設者
川崎 明德

学院の理念

ひとをつくる

体をつくる

医療福祉学をきわめる

教育方針

学院の理念を基調とし、有為の理学療法士・作業療法士を世に送るため、次のような方針により教育を行う。

1 人間性豊かな理学療法士・作業療法士を養成する

リハビリテーションの成果は、より豊かな人間性に裏付けされた、知識及び技術、幅広い教養と総合的判断力、創造力、研究能力などに深くかかわっていることを自覚させ、その育成に努める。

2 健康な心身と旺盛な活動力を備えた理学療法士・作業療法士を養成する

リハビリテーションは、高度な知識と技術を有する専門職によって行われるのであるが、これに携わるものは特に精神的、身体的に健康・明朗であり、加えて粘り強い忍耐力が必要である。このため、学園内の整備された諸施設・設備を利用しての各種スポーツや文化活動を奨励し、壮健な心身の練磨に努める。

3 自ら学び続ける理学療法士・作業療法士を養成する

理学療法士・作業療法士は、医療活動において優れた技術を提供するだけでなく、産業・スポーツ・地域等で保健・医療・福祉を柱とした知識や技術を提供できる専門職でなければならない。そのため、生涯にわたって自ら学び続ける態度や資質を養う。

Since 1974
Kawasaki Junior College of Rehabilitation

50th

目次

沿革・全景・外観	4
ごあいさつ	6
創立50周年を迎えて	9
校歌に寄せる思い	10
《50年のあゆみ》	
50年の軌跡(あしあと)	14
学生寮の変遷	22
指導者の“かわらぬ思い”	23
卒業生の声	24
《学院の今》	
学科紹介	44
年間行事	48
学内風景	50
ボランティア・同窓会	51
《資料編》	
組織図	54
歴代役職者	55
入学定員・志願者数・入学者数	56
入学生の出身都道府県	58
卒業生数	59
国家試験の状況	60
卒業生の就職先	61
学院の教職員・現教職員名簿	62
旧教職員名簿	63
学院案内パンフレットの変遷(その1)	12
川崎学園祭	42
学院案内パンフレットの変遷(その2)	52



沿革

- 1974 (S49)年 3月 ■ 理学療法士及び作業療法士養成施設として厚生大臣から指定認可
- 3月 ■ 「川崎リハビリテーション学院」岡山県知事 設置認可 (設置者 財団法人川崎病院)
- 4月 ■ 川崎リハビリテーション学院開校
理学療法学部 入学定員20名
作業療法学部 入学定員20名
- 4月 ■ 第1回入学式
- 1977 (S52)年 3月 ■ 第1回卒業式
- 1979 (S54)年 7月 ■ 「財団法人川崎医学振興財団」に設置者名称変更
- 1993 (H 5)年 11月 ■ 創立20周年記念式
- 1999 (H11)年 3月 ■ 「専門学校川崎リハビリテーション学院」岡山県知事 設置認可
理学療法学科 入学定員30名
作業療法学科 入学定員20名
- 2003 (H15)年 11月 ■ 創立30周年記念式
- 2006 (H18)年 4月 ■ 「学校法人九曜学園」に設置者変更
- 2009 (H21)年 4月 ■ 新校舎へ移転
- 2013 (H25)年 11月 ■ 創立40周年記念式
- 2015 (H27)年 4月 ■ リハビリテーション教育評価認定 (一般社団法人リハビリテーション教育評価機構)
- 2020 (R 2)年 4月 ■ 「高等教育の修学支援制度」対象校として認定 (岡山県知事)



川崎学園全景



岡山キャンパス 全景



外観（西側より）



学院玄関

専門学校川崎リハビリテーション学院 創立50周年を迎えて

学校法人九曜学園 理事長

川崎 誠治



2024（令和6）年、専門学校川崎リハビリテーション学院は創立50周年の節目の年を迎えました。

創設者の川崎祐宣が1974（昭和49）年に、当時の医療の現状から、人間性豊かで優秀な医学的リハビリテーションの専門技術者の養成が急務であると考え、私学としては全国で4番目の養成施設として、この学院を開校いたしました。当初の設置者は「財団法人川崎病院（のちに「財団法人川崎医学振興財団」に名称変更）」でしたが、2006（平成18）年に「学校法人九曜学園」が開設され運営を承継しました。2009（平成21）年、本学院の校舎を建て替えて川崎医科大学附属病院の北館棟としてその一部に移転し、施設・設備面も整備いたしました。入学志願者も順調に増加し、2019（平成31）年に入学定員を理学療法学科40名、作業療法学科25名に増員しております。

学院の理念「人間をつくる」「体をつくる」「医療福祉学をきわめる」を基調とした教育方針は、初代学院長の水野祥太郎先生から、明石 謙先生、椿原彰夫先生、現在の花山耕三先生へと受け継がれています。そして、教職員の努力と実習施設など関係各位のご指導とご協力をいただきながら、また優秀な理学療法士・作業療法士を目指す学生諸君の熱意によって、半世紀にわたり良き伝統と実績をつくりあげてまいりました。現在までに2,249名の卒業生が、理学療法士・作業療法士として全国の医療機関・福祉施設等で活躍しています。指導的立場で育成や教育に携わっている者も多く、本学院の卒業生として高く評価していただいております。

現在、18歳人口の減少などにより専門学校への進学希望者が減少傾向にあります。一方で医学的リハビリテーションは医療から福祉分野まで求められており、理学療法士・作業療法士の関りは多岐にわたっています。創設者の思いを次の100年に向けて繋いでいき、真に有為で実践力のある理学療法士・作業療法士の養成に尽力していく所存でございます。引き続き、皆様方には温かいご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

創立50周年を迎えて

専門学校川崎リハビリテーション学院 学院長

花山 耕三



専門学校川崎リハビリテーション学院は1974（昭和49）年に当時数少ない、理学療法士、作業療法士の養成校として松島の地に設置されました。半世紀が経過しましたが、その間の世の中、理学療法士、作業療法士、そして本学院を取り巻く環境の変化は顕著です。創立当時はリハビリテーション医療の恩恵に浴する人は限られていましたが、現在では急性期から生活期まで、医療から福祉まで、理学療法士、作業療法士が関わることはなかば当然となっています。これには、世の中のリハビリテーションに対する関心の高まりとともに2000（平成12）年の回復期リハビリテーション病棟入院料創設と介護保険制度施行、さらには同時期の規制緩和、規制改革による養成施設の増加が大きく関与しています。また、理学療法士、作業療法士養成施設については1992（平成4）年から4年制大学教育が始まり、川崎学園においても川崎医療福祉大学に1995（平成7）年にリハビリテーション学科が設置されました。多くの養成校で、あるいは学園内の他学科において大学への移管がなされる中、本学院は3年制の専門学校として存続し理学療法士、作業療法士の養成を継続してまいりました。全国には大学を含めて非常に多くの養成施設が存在しますが、本学院の卒業生の高い国家試験合格率は現在に至るまで持続され、その実績はウェブサイトで公開されています。これを支えているのは、まさに本学院の伝統である教育システムとその姿勢であり、日々の学生の努力とともに教職員の一人一人の学生に対する熱心な指導であると認識しております。

50周年を迎え、本学院の足跡を振り返るとともに、今後も有為な理学療法士、作業療法士を輩出し続けられるよう気持ちを新たにしているところです。これまで多くの関係者の方々にいただいたご支援に感謝の意を表すとともに、今後も変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

専門学校川崎リハビリテーション学院に感謝

専門学校川崎リハビリテーション学院
同窓会 会長

草地 清志



1974年4月、「リハビリテーション」という言葉自体まだ一般的でない時に、リハビリテーションの重要性に早くから着目しておられた川崎学園創設者である川崎祐宣先生のご尽力により、全国で10番目、理学療法学科・作業療法学科併設では3校目の養成校として専門学校川崎リハビリテーション学院が開校されました。

初代学院長には、日本リハビリテーション医学会の第一人者である水野祥太郎川崎医科大学学長が兼任され、2代目学院長には、日本のリハビリテーション科医第一人者の明石 謙川崎医科大学リハビリテーション医学教授が就任されました。

「人をつくる」「体をつくる」「学問をおさめる」の建学理念の基、専門家としての知識・技術の修得と医療人としての資質向上のため、医科大学または外部からの著名な先生方にご教授いただくハイレベルな学修環境に驚嘆いたしました。

1977年の国家試験、当時は1次筆記試験、2次実技試験と分かれており、その実技試験の試験官が特別講義の講師だと気づいたときには、驚きと緊張が高まって手が震えたことを覚えております。

また、外部医療施設等での臨床実習においては、水野先生・明石先生のご高名により、手厚い教育・指導をいただきました。その一例として、毎週、整形外科手術見学をさせていただき、よりリアルで質の高い臨床実習を経験させていただきました。休日には余暇活動まで配慮いただき、充実した日々を過ごし、人間関係構築に繋がりました。

健全な心身と知識・技術を持って治療に専念するという教へは、卒業後の臨床現場で生かされ、川崎ブランドは各方面から信頼と高い評価を得られています。

創設50年の歴史の中、2,249人の卒業生を輩出している川崎リハビリテーション学院は、リハ職として働いております我々にとっては誇りであります。

最後になりますが、創設者の川崎祐宣先生に心より感謝申し上げます。

創立50周年を迎えて

創設者である川崎祐宣先生はリハビリテーションの必要性を早くからお示しになり、私学として全国で4番目の専門職養成校として本学院が誕生しました。創立50周年という節目を迎えることができましたのは、多くの方々のご協力、ご支援の賜物であり厚く御礼申し上げます。

私の知るこの30年の間にも本学院は変化を遂げてきましたが、人が替わろうとも50年間変わらないのは、絶え間なく努力し続ける学生と彼らを支える教職員、そして多くの卒業生を含む臨床実習教育に携わった先生方の情熱はないでしょうか。卒業生であり教員である私も、後輩たちがその能力を伸ばし、社会に貢献できるセラピストとして送り出せるよう努力してまいります。今後ともご指導とご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

川崎リハビリテーション学院の創立50年にあたり、これまで教育や学校運営についてご指導とご鞭撻を賜りました皆様方に深く御礼申し上げます。

創立30年、40年の節目にも立ち会いましたが、この10年の変化は特に大きいものでした。COVID-19の流行により、オンライン講義の実施や臨床実習の制約など、対応に苦慮する状況が多く生じました。また、指定規則の改正に対応して臨床実習の内容を大きく変更しました。

学院長の花山耕三先生のご指導のもと、制約がある中で教職員一同力を結集して対応を模索し、困難な局面を乗り切ることができました。

この先も入学希望者の減少をはじめとして多くの課題に対応する必要があると見られます。皆様の温かいご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

このたび川崎リハビリテーション学院は開校50周年を迎えました。学園創設者の川崎祐宣先生をはじめこれまでの教職員、臨床実習施設などみなさまの多大なご尽力ご支援によるものと深く感謝いたします。

私が20期生として卒業してから30年近い歳月が流れました。競争を勝ち抜いた学生を育てられた時期は過去となり、現在は数々の広報活動を行っても入学志望者は減少しています。講義では国家試験に必要な知識をつけることを念頭に教員は工夫を重ねています。臨床実習では診療参加型実習が標準となり、先達の思考や技能を身につけるために睡眠時間を削ることはなくなりました。学生にとって学びやすい環境が整っています。

今後も高い国家試験合格率と充実した臨床実習が堅持できるよう教職員一同努力を重ねてまいります。皆様の一層のご支援を賜りますようお願いいたします。



専門学校
川崎リハビリテーション学院
教務主任

村上 朋彦



専門学校
川崎リハビリテーション学院
理学療法学科長

筈野 稔



専門学校
川崎リハビリテーション学院
作業療法学科長

常久 謙太郎

校歌に寄せる思い



作曲

樫原 彰夫
(前学院長)

専門学校 川崎リハビリテーション学院の創立50周年、誠におめでとうございます。私は、1995年から2019年まで学生への講義と解剖学口頭試問を担当させていただきました。多くの時間を勉学に費やし、療法士の国家試験に合格された学生の皆様が成長されていく過程を見守ることは、教育方法を学ぶための貴重な経験であり、心から感謝申し上げます。

2004年には学院長の職を拝命いたしました。川崎学園内の教育施設で行われる入学式や卒業式に来賓として出席する度に、学院に校歌が存在しないことを寂しく感じておりました。前任の明石謙先生はビオラの名手であり、教職員の中には音楽に精通した方々も多かったため、不思議に思いました。そこで、作詞や作曲を学生に公募してはどうかと何人かの教職員をお願いいたしました。結局は実現されませんでした。数年が経って、森啓介先生が事務長になられた時に、同じ相談をしてみました。驚いたことに、翌日に「樫原の教育への思いを言葉にして、詩を作ってみた」と言われました。森先生が中学校の教員としてご勤務されていたことを再確認し、一つひとつの言葉の重みと情緒溢れる語句の流れを感じることができました。

さて、作曲はどなたに頼むのが良いかと思案いたしました。数日以内に曲が完成しなければ森先生には申し訳が立たないと思いました。作曲の経験があるわけでもないのに、自分が担当するしかないと思案し、無謀な挑戦意欲に駆られました。自宅にはピアノがありましたが、思いついた楽曲を録音できないので、iPadに鍵盤アプリをインストールして利用しました。昔、父が出身校でもない旧制第三高等学校（京都大学）の逍遥の歌「紅もゆる」や早稲田大学校歌「都の西北」を口ずさんでいたのを思い出し、誰もが歌いやすく、現代風の曲調が好ましいと考えました。そして、2パターンを作成し、事務職員の方々に選んでいただきました。吹奏楽の分野で屈指の実力を誇る指揮者である作陽学園の佐藤道郎先生に楽譜を見ていただき、編曲をお願いできたのは非常に幸運でした。校歌は2013年7月に完成し、9月10日に行われた学院懇親会で披露いたしました。懇親会の終了後、学園長でいらっしゃった川崎明德先生から中山下にあるインターリュード岡山に誘われ、生演奏のもとで校歌を歌うようにと指示されたことは、懐かしくも嬉しい思い出となっています。今は、毎年の入学式と卒業式で斉唱される歌を口ずさむことが楽しみとなりました。



作詞

森 啓介
(元事務長)

学院の創立50周年、おめでとうございます。10年前の学院の創立40周年に際し、長年の念願である校歌を作ることになり、当時の学院長の樫原彰夫先生から「私が作曲しますから、森さんが歌詞を作ってください」とのご指示。経験のない私は戸惑いながらも、作詞にあたって歌詞にぜひ取り入れたい思いを三つ選びました。それは、第一に「日本の医療の先駆けとしての川崎学園の崇高な理念と歴史」、次に「ふるさとの森、施設設備、優秀な指導陣などの素晴らしい教育環境」、そして「学院卒業生が誇りをもって、日本の各地でリハビリ医療の充実・発展に大きく貢献していること」です。加えて、樫原先生が是非にと希望された「本学院の学生たちが日ごろ共に手を取り、苦難に耐えて医療の道を究めようと頑張っている姿」という学生たちへの暖かい思いとエールです。多くの思いが込められた、この校歌が学院生活の折々に歌い続けられていくことを心から念願しています。

専門学校 川崎リハビリテーション学院校歌

作詞 森 啓介
作曲 椿原 彰夫
監修 佐藤 道郎

Moderato

4
1. あ さ か ぜ か お る ま つ し ま の
2. は さ か は さ く お の ま つ し き ま そ の
3. ひ か り あ く ふ れ る ま ま つ き こ そ ろ う を

9
み ど り す が し き お か の う え
ふ ぶ る さ り だ し も り ま い かな の や え
む ね に に たい だ い て い び た て ば

13
ひ さ 一 ら き き ず き し が く も え ん に
さ た き び が け の り こ に ろ ゆ ま め 一 り み っ ち つ て

17
り そ う を も と め つ ど 一 い きん て わ か
い り よ う の み ち め を き わ 一 り きん と と た か
か わ ら の ぬ み つ た え き ず 一 り きん つ と つ た か

21
き の ち の り み と せ き た え ん わ か
に き て の と り た あ え は ま げ た ま な ん と た か

25
き の ち の り み と せ き た え ん
に き て の と り た あ え は ま げ た ま な ん

29
3.
ん

一、朝風薫る松島の
緑清しき丘の上
拓き築きし学園に
理想を求め集い来て
若き命の三年鍛えん

二、春は桜の咲き競う
ふるさとの森学舎に
先駆けの心守りつつ
医療の道を究めんと
共に手を取り耐え励まん

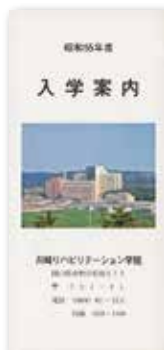
三、光あふれる 真心を
胸に抱いて出で立てば
旅路遙かに夢満ちて
変わらぬ伝統築きつつ
崇きこの道歩みて行かん

学院案内パンフレットの变迁 (その1)

● 入学案内



1978年



1980年



1981年



1986年



1988年



● 学院案内 (入試ガイド)



1997年



2000年



2012年



2016年



50年のあゆみ

50年の軌跡 あしあと

設置趣意書

近年身体又は精神に障害あるものを、社会生活に復帰させるための医学的リハビリテーションは急速に発達し、その重要性も認識されつつあるにもかかわらず、これに関する専門技術者の養成施設は極めて少なく、これが我が国における医学的リハビリテーションの本格的な普及発達を阻害する原因となっている重大事実にかんがみ、医学的リハビリテーション専門技術者たる理学療法士及び作業療法士の養成機関を設置して、本県内はもとより全国的に優秀なる技術者を養成して社会並びに医学界に貢献せんとするものである。



川崎リハビリテーション学院校舎竣工（附属病院西側）

創立10周年記念誌

10年の重み

水野祥太郎

10年はひとつの区切りであるという。かえり見ると、まことにその言葉の重みに、今更びっくりするばかりである。

学院、そしてそこに育った人々のうえに、またひろくは、日本のリハビリテーションのうえに、これからの次々の10年の節目節目に、如何なる思い出が作り出されていくことであろうか。おそらくはこれからも、つよく世の中の動きを、また世界の移り変りの急速度で進んでいく時代を受けることになるであろう。そのかなたへと、はるかなる想いを馳せながら、次の世代の人々のありさまを大きい期待をもって見ていきたいと想う。

(学院長あいさつより抜粋)





旧学院校舎棟（1979年）



旧学院玄関

1974~1983

● 1974 (S49)年

- 3月 理学療法士及び作業療法士養成施設として厚生大臣から指定認可
「川崎リハビリテーション学院」岡山県知事 設置認可
(設置者 財団法人川崎病院)

- 4月 川崎リハビリテーション学院開校
理学療法学部 入学定員20名
作業療法学部 入学定員20名

初代学院長 水野祥太郎就任

第1回入学式



織り機（開校～2010年ごろ）

● 1977 (S52)年

- 3月 第1回卒業式

● 1979 (S54)年

- 7月 「財団法人川崎医学振興財団」に設置者名称変更

- 9月 教室拡張増築



第1回卒業式

1984~1993

- 1984 (S59)年
 - 1月 「10年のあゆみ」発行
 - 2月 リハビリテーション学院創立10周年事業
- 1984 (S59)年
 - 4月 学院長 明石 謙就任
- 1989 (H 1)年
 - 4月 理学療法学部入学定員変更(20名→30名)
- 1990 (H 2)年
 - 4月 新教育課程実施
- 1993 (H 5)年
 - 11月 リハビリテーション学院創立20周年記念式・「21世紀への更なる飛躍」発行



旧学院校舎棟（平成元年ごろ）



第11回入学式



授業風景



創立20周年記念式

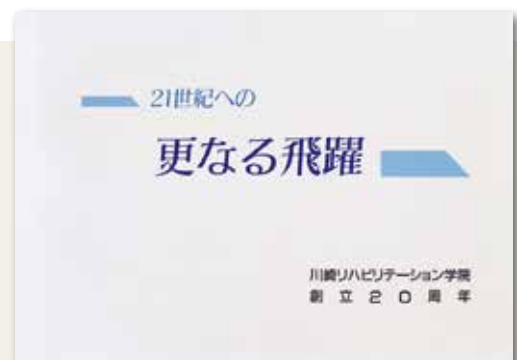
創立20周年記念誌

ごあいさつ

明石 謙

「^{ひと}人間をつくる、体をつくる、医学をきわめる」という川崎学園の建学の理念は、分かり易く、無駄の無い、しかも教育に携わる者として、生涯追及して余りある目標である。学院の学生諸君は、厳しい教育にじっと耐え、努力を惜しまず、血のにじむような思いをしながらセラピストとして社会に巣立ち、全国的に活躍している。一生を通じ、この理念を胸に秘めて努力を続けることであろう。

(学院長あいさつより抜粋)



1994~2003

● 1994 (H 6)年

3月 学院章制定

● 1999 (H11)年

4月 学校教育法の一部改正により
各種学校から専門学校となる
理学療法学科 入学定員30名
作業療法学科 入学定員20名

● 2003 (H15)年

11月 リハビリテーション学院創立
30周年記念式・「創立30周年
記念誌」発行



旧学院校舎棟



学院章



生物学実習



生理学実習



創立30周年記念式

創立30周年記念誌

開学30周年を迎えて

明石 謙

セラピスト養成の教育は、しっかりとした基礎教育と実習を重視した臨床教育を行い、加えてより良い就職環境へと卒業生を送り出すことが特に必要である。更に私立学校の持ち得る特色を生かし、学生一人ひとりが独自の哲学を身につけるように育てなければならない。そのためにも教育に携わる者が医療に関するしっかりとした考え方を持ち続けることが最も重要である
と考える。

(学院長あいさつより抜粋)



2004~2013

- 2004 (H16)年
 - 4月 学院長 椿原彰夫就任
- 2006 (H18)年
 - 4月 「学校法人九曜学園」に設置者変更
 - 7月 第1回オープンスクール
 - 9月 本館棟6・7階東棟仮校舎に移転
- 2009 (H21)年
 - 3月 新校舎(附属病院北館棟)竣工
 - 4月 新校舎に移転
新教育課程実施
 - 5月 新校舎落成披露行事
- 2013 (H25)年
 - 11月 リハビリテーション学院創立40周年記念事業・「創立40周年記念」発行・校歌披露



現学院校舎棟 (附属病院北館棟)



ワッペン



第31回入学式



旧校舎 運動学実習 (触診)



40周年記念式

創立40周年記念誌

伝統的な教育システムと教育への熱意

椿原彰夫

一貫して厳格な教育方針が踏襲され、「濃厚な基礎医学教育と臨床実習を重視する教育システム」が実践力ある療法士を生み出してきた。少子化と大学全入時代の波は少なからず本学にも影響を与えているが、医療福祉関連職にふさわしい温かい人間性と礼節を重んじる規律を遵守できる良識ある社会人を育成するという伝統的な教育システムは、他学に秀でたものであると自負している。

(学院長あいさつより抜粋)



新校舎完成までの道のり

◆ 旧校舎～仮校舎



仮校舎への引っ越し準備風景
(2006年8月)



旧校舎での最後の集合写真
(引っ越しに向けて：2006年8月)



旧校舎解体工事 (2007年6月)

◆ 仮校舎授業風景 (2008年10月頃)



◆ 新校舎完成 (2009年3月)



3階 ADL室

8階 講堂



7階 基礎医学教室



7階 教室



◆ 新校舎落成披露式典 (2009年5月)



2014~2023

- 2014 (H26)年
 - 4月 学院長 花山耕三就任
- 2015 (H27)年
 - 4月 リハビリテーション教育評価認定 (初回)
(一般社団法人リハビリテーション教育評価機構)
川崎学園入学時合同研修開始
- 2016 (H28)年
 - 3月 3校合同オープンキャンパス (初回)
 - 9月 3校合同入試開始
- 2018 (H30)年
 - 4月 春の体験授業&病院探検 (初回)
- 2019 (H31)年
 - 4月 入学定員増
理学療法学科 入学定員40名
作業療法学科 入学定員25名
- 2020 (R 2)年
 - 3月 一般社団法人日本作業療法士協会による「作業療法教育基準」認定
 - 4月 理学療法士作業療法士養成施設指定規則変更に伴う学院教育課程変更
「高等教育の就学支援制度」対象校として認定 (岡山県)
 - 5月 世界作業療法士連盟 (WFOT) 認定
- 2023 (R 5)年
 - 4月 第50回入学式



現学院校舎棟 (西側より)



リハビリテーション教育評価機構
認定証 (理学療法学科・作業療法学科)



日本作業療法士協会 適合校 認定証



世界作業療法士連盟 (WFOT) 認定証



第50回入学式

川崎学園入学時合同研修（2015年～）

平成27年4月11日(土)9時から11時10分まで川崎祐宣記念講堂において、川崎学園入学時合同研修2015を開催した。川崎学園の4つの教育施設に今春入学した全学生1500余名が、医療、医療福祉を担う同朋として一堂に会する研修である。

目的は、1) 良き医療人、医療福祉人を育成することが学園全体の使命であることの自覚を強化する。2) 全人的医療、医療福祉人を実践するための緊密な多職種連携が必要であることの自覚を促す。今後、本学園において学部横断的な多職種連携教育を開始する端緒と位置づける。

二部構成のプログラムで行い、第一部は「川崎Spiritの源流をたどる」第二部は「私たちは“良き医療人”“良き医療福祉人”たらんとする仲間である。」のテーマであった。

(川崎学園だより431号 2015年5月号記事より抜粋)



3校合同オープンキャンパス（2016年～）

2016年3月21日(月・振)に新たな試みとして、医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院の3施設合同でオープンキャンパスを開催しました。予想を大きく上回って800名を超える参加者があり、大変盛会となりました。

毎年3月のオープンキャンパスは、高校1・2年生を主な対象として、翌年度の入試を見据えたイベントとして開催しています。特に今回は来年度の新入試制度や医療福祉大学に新たに3学科が加わることもあって、参加者へ少しでも受験時の参考となるよう入試説明会を行いました。参加者は、入試概要や試験内容などメモを取りながら、真剣な表情で聴き入っていました。また、学科・専攻ごとに開催された「ミニ講義」や「学科説明・実習室見学・体験学習」も多くの皆さんに参加していただき、各学科の教員や先輩から勉強の内容や学生生活の様子を熱心に聞いたり、実習室を見学して実際に体験したりと、充実した時間を過ごした様子でした。

(川崎学園だより442号 2016年4月号記事より抜粋)



3校合同入試（2017年度入試～）

10月の推薦入試前期に続き、11月25日(金)・26日(土)の両日、推薦入試後期(A日程・B日程)が実施されました。今回から他大学等はもちろん学園内の各学科・専攻間の併願が可能となり、A・B日程の2日間にわたって実施、更に医療福祉大学会場に加えて東京から鹿児島まで11カ所の学外入試会場が設けられ、本格的に3施設合同入試がスタートしました。募集人員は3施設で249名(医福大218、医療短大25、リハビリテーション学院6)に対して実数でA日程386名、B日程386名の計772名(両日出願を除くと実質486名、併願を含めた延べ数では1070名)の出願がありました。内容的には、“基礎学力確認テスト”は前回までと同様ですが、面接は今回から3施設合同の集団面接に変わりました。1週間後の12月2日(金)に併願入試としては最初の、A日程194名、B日程183名の合格者を発表しました。

(川崎学園だより451号 2017年1月号記事より抜粋)

春の体験授業&病院探検（2018年）

4月28日(土)、総合医療センターにおいて、「かわさき春の体験授業&病院探検」を開催しました。このイベントは、医療福祉分野の専門職をめざす中学・高校生を対象に、メディカルスタッフを育成する医療福祉大学、医療短期大学、リハビリテーション学院の3校で、学生がどのようなことを学び、どのような場所で実習を行い、学んだことをどう社会で実践していくのかを知ってもらおうと、川崎学園アドミッションセンター主催で企画しました。

初開催となった今回は、募集定員72名に対し144名の応募があり抽選となりました。当日は当選者と保護者合わせて118名の皆さんに参加いただきました。

参加者は、3つのコースに分かれ、まず「体験授業」ではそれぞれの職種に関する講義と演習を体験。その後、授業の内容を実際に自分の目で見る「病院探検」で、臨床現場を見学しました。複数の職種を同時に学ぶことで、さまざまな職種のメディカルスタッフが力を合わせて働いていることを実感したようでした。

(川崎学園だより467号 2018年5月号記事より抜粋)



学生寮の変遷

1974~2006



旧学院校舎棟（4階部分）



防火訓練

2006~2019



川崎医療短期大学 学生寮

2019~



川崎学園学生寮「このはな寮」（2019年10月開寮）



「中山レジデンス」（2023年4月開寮）

指導者の“かわらぬ思い”

理学療法学科 ～選ばれる理学療法士の育成を目指して～（2011年7月）

リハビリテーション学院は、1974年、理学療法士及び作業療法士の養成校として、全国で10番目、私立では4番目に開設されました。現在までに卒業生は1,600名を超えました。

1999年に学校教育法の一部改正に伴い「専門学校 川崎リハビリテーション学院」と改名、2006年には「財団法人 川崎医学振興財団」から「学校法人 九曜学園」に経営が引き継がれました。

そして、2009年、川崎医科大学附属病院の北館棟3、7、8階に新校舎が完成。まさに“装いも新たに”再(?)スタートを切りました。

旧校舎の時代もそうでしたが、新校舎でも本学院の階下にはリハビリテーションセンターがあります。リハセンターや回復期リハビリ病棟がすぐ身近にあるという環境は教員と学生にとって大変有意義なものです。

我々教員はリハセンターのPT・OTとしても勤務しており、エレベーター1本で教育と臨床の場を常に行き来しております。日頃の臨床経験が講義や実習指導に生かされ、教育や研究活動が臨床に生かされるという川崎学園全体に共通するこの理念と利点は、本学院においても遺憾なく発揮されているのではないのでしょうか。また学生にとっても、常に病院の中にいるという意識や緊張感は、勉強する上でも接遇に関する上でも良い効果が得られていると思います。

このコーナーのタイトルどおり、我々の部署は『小さな職場』です。理学療法学科の教員は8名、仲間である作業療法学科の教員を加えても15名です。学生定員は両学科合わせて各学年50名、3学年で150名。リハビリテーション学院自体が『小さな学校』です。小さなリハ学院が37年間継続してこられたのは、ほどよい距離が保たれ、お互いの顔が見える“小ささ”が一因と言えるかも知れません。

“全国に名の知れた講師陣”とは決して言えない我々ですが、チームとして相当な戦力を持っているものと自負しております。チーム・アプローチはリハビリテーションの基本です。個々の選手は無名であっても、チームワークや戦術で勝利する、そんなチームになれるよう今後とも切磋琢磨し、努力してまいります。(村上 朋彦)

(川崎学園だより385号「小さな職場のなかま」より抜粋)



作業療法学科 ～使命感溢れる作業療法士の育成を目指して～（2011年3月）

リハビリテーション学院には作業療法学科と理学療法学科があって、それぞれ作業療法士(OT)と理学療法士(PT)を養成しています。

現在、作業療法学科の教員は7名です。全教員が「良い臨床家を送り出したい」という気持ちを持って学生に接しています。

リハビリテーション学院はこの病院で最も新しい北館棟の中にあります。2009年4月に新築された校舎に移転しました。講義用の教室は7階にあります。日常生活動作実習室・木工室・手工芸室・装具加工室・機能訓練室などの実習室が3・7・8階に配置されています。

人にはだれでも生活があり、その人にとって大切な作業があります。Aさんには、トイレに一人で行けることが大切かもしれないし、ぶどう農家のBさんは身辺動作の自立だけでなく、おいしいぶどうを作ることかもしれないし、……とみなそれぞれの生活を送ってほしいという希望をお持ちです。

作業療法はそういう希望を実現するための援助を行います。それが不可能な場合は新たな生き方を獲得するための援助を行います。しかも、援助の手段として具体的な作業を用います。まひを少しでも回復させるための機能訓練もするし、着替えやトイレの練習もするし、障害を補う道具を使いこなす練習もするし、木工や手工芸などの生産的な作業を通じて心身の機能に働きかけます。

また、回復期リハビリテーション病棟が5階に、リハビリテーションセンターが2階にあり、エレベーター1本で教育の場と臨床の場を行き来できる配置になっています。

リハビリテーションセンターでの臨床場面を体験できるのも学生にとっては大きなメリットです。

この恵まれた環境を活かし、一人でも多くの学生に作業療法の使命ややりがいを伝えていきたいと思います。(常久謙太郎)

(川崎学園だより381号「小さな職場のなかま」より抜粋)



卒業生の声

理学療法学科

1 期卒業生



各務 博久

川崎リハビリテーション学院開校50周年、おめでとうございます。

川崎祐宣先生は、リハビリテーションの必要性を早期に認識され、「人間をつくる」「体をつくる」「学問をおさめる」の建学の理念を掲げ、昭和49年4月に開校され、第一回入学式が4月10日に行われました。

振り返りますと、周辺は稲、イグサが作付けされ、のどかな田園風景でした。学園祭での仮装は倉敷の商店街を練り歩きました。臨床実習は1か所12週間で一般病院、温泉病院、小児の施設で受けました。国家試験は学院卒業をはさんで、1次(学科)、2次(口答・実技)で行われ、合格発表は5月でした。

川崎リハビリテーション学院がますます発展されることをお祈りします。

作業療法学科

1 期卒業生



檜原 美恵子
(旧姓 小野)

専門学校川崎リハビリテーション学院創立50周年誠におめでとうございます。50年の歴史・伝統はとても誇りに思います。

現職を退いて8年になりますが、現在も専門職を生かして仕事を続けています。リハビリ職種の必要性・重要性を大きく感じながら励んでおります。学院での学びが私の礎です。とても感謝しています。学生時代の骨のスケッチや口頭試問、解剖学実習、卒業試験等々、今は大変だったことはすっかり忘れていますが、でも頑張った良かったと思っています。

今も学生の学びは大変でしょうが、リハビリ専門性の重要性を学び伝統を作ってほしいです。現役の学生や卒業生の皆様の今後のご活躍と、リハビリテーション学院の益々のご発展をお祈り申し上げます。



伊澤 尚美

「O-50-102、伊澤尚美」これが私に与えられた番号。カラン、カランと寮の朝に鐘の音が響く。起床、そうじなどの行事が始まり、今日も1日のスタートだ。

2期生の私達が寮生皆で規則を作り、学院の寮の規律正しい生活がここからスタートしました。今もまだ続いているのでしょうか？

建物の1階に浴室があり、遅く帰る男子学生とエレベーターの中で鉢合わせ!! 階段を1階分降りるだけの登校! でも、寮に居たおかげで私は卒業できました。皆がいたからこそと確信しています。

試験が終わると順位を掲示板に、やや腰を丸くしながら貼りに来る事務長さん。教員が全国的にもまだ十分でないにもかかわらず、私達を指導してくださった諸先生方!! 今はもう私達はその年齢に達し、今の若者を見えていますよ。

大学と合同で仮装をし、倉敷の美観地区を練り歩いたり、球技大会をしたり。私達2期生は、修学旅行と称し大山に1泊スキー旅行にも出かけました。卒試・国試のことを考えると先生方には言われましたが、貴重な楽しい時でした。

今はカリキュラムが整い、学校数も増え(私達の頃は全国にたったの5校) PT・OTを目指す人も多くなりましたが、その分、専門性や特異性が高くなり、人の心、あたたかさを最重要とする部分が減少したのではと危惧している私です。思いやりと感謝の気持ちと行動をさらにさらに期待します。

創立100周年にも向けて、今後の発展をAIに負けない優しい人材の育成を祈念いたします。



卒業生の声

理学療法学科

3期卒業生



渡邊 進

学院創立50周年誠におめでとうございます。私は理学療法学科3期卒の渡邊進と申します。卒業後、川崎学園に41年間お世話になりました。

さて、本棚には3冊の本が並んでいます。水野祥太郎先生の「ヒトの足」、明石謙先生の「運動学」、古米幸好先生の「寝たきりにならないために」です。初代学院長水野先生は理学療法士・作業療法士教育の礎を創られました。進化論にも造詣が深く「ヒトの足」はその集大成の名著です。2代目学院長明石先生からは、「運動学」などの基礎医学の大切さを徹底的に教わりました。古米先生からは患者様に対する姿勢を学ばせていただきました。この著書は実践的な本です。

先人たちの精神を受け継ぎ、学院がますます発展されることを心より祈念いたします。

作業療法学科

3期卒業生



井上 桂子

創立50周年おめでとうございます。貴学は日本の作業療法士養成校の中で最も歴史のある学校になられています。これも、今までの教職員の皆様はじめ関係者の皆様の努力の賜物と思います。

私は、卒業後、教員として、貴学で16年間、川崎医療福祉大学で28年間働かせていただきました。臨床は川崎医科大学附属病院で経験させていただきました。私は、高校3年時に肉腫の診断で右大腿切断術、義足歩行訓練を受けました。その後、研究者を目指して岡山大学理学部に進んだのですが、卒論で「フナの呼吸中枢」の研究を行う中で「もっと人と関わる仕事がしたい」と思うようになり、貴学に進み作業療法士になりました。充実した職業人生が送れたと思います。

今後も貴学が存続し、多くの作業療法士を世に送ってくださることを願っています。

理学療法学科

4期卒業生

松川 誠

専門学校川崎リハビリテーション学院の創立50周年おめでとうございます。

私は、昭和52年に高卒で入学の4期生で、同期には社会人や大卒後等の方も多く、びっしりと組まれた授業で学生生活が始まりました。様々な思い出の中では、原書（英語）の教科書、骨のデッサン、カエルを使った生理学実習、学園祭での仮装行列、中伊豆・若草園・中国労災での臨床実習、ガーゼ伸ばしのアルバイト等が特に印象深くあります。また、卒業試験と国家試験前はこれまで一番集中して勉強をした時期でもありました。

卒業後は、病院での経験から「生活」と「地域」を核に、医療・保健・介護・福祉に携わり今に至っています。

最後に、亡くなられた学院関係者の方々のご冥福をお祈りいたすとともに、学院の更なる発展を祈念いたします。

作業療法学科

4期卒業生



前田 真弓
(旧姓 辻)

創立50周年誠におめでとうございます。

私は昭和55年に学院を卒業、4年間広島で就職、その後昭和59年、縁あって岡山に戻り附属病院に就職以後34年間務め、平成30年定年退職し現在は臨床から離れています。

この度『卒業生の声』の原稿の執筆依頼を受け、今までの10年～40年の記念誌を読み返しました。記念誌の写真に懐かしいお顔を見つけ、時代の流れと共に学院と過ごしてきた数々の思い出が蘇ります。今まで学院を支えて来られた、水野祥太郎先生、明石謙先生、そして椿原彰夫先生、花山耕三先生、その他素晴らしいPT・OTの諸先生方に改めて敬意を表したいと思います。

最後に、今後の川崎リハビリテーション学院の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

卒業生の声

理学療法学科

5期卒業生



木村 貞治

この度は創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。
私は5期生として昭和53年（1978年）に理学療法学科に入学させていただきました。水野先生の「医学概論」における物事の捉え方や明石先生の「運動学」における機能解剖学的な視点、そして、古米先生の専門の授業における階層性を考慮した整然とした板書の内容などは、私の学びに大きな影響を与えていただいたものと感じております。また、事務室の佐藤先生には、いつも親身に相談にのっていただきました。また、通称「二子下宿」というところでの先輩、同級生、下級生との共同生活もかけがえのない貴重な時間となりました。卒後は東京厚生年金病院で12年間臨床業務に携わらせていただき、今は、信州大学で教鞭をとらせていただいておりますが、川崎リハビリテーション学院で学ばせていただいたことがそれらの活動の原動力となっております。

多様に変動する社会の中で、次の50年に向けても「社会のお役に立てる力をもった優秀な理学療法士・作業療法士」が輩出されていくことを心より願っております。

作業療法学科

5期卒業生



中島 英彦

早いもので卒業して43年が経とうとしています。ただ、私の場合は高卒現役で2期生として入学したものの、在学期間が6年で入学時の同窓生の倍も学院へ通い、ほぼ創立時からの多くの思い出があります。入学時には校舎が完成しておらず、医学部や医療短大の空き教室を転々としながら講義を受けたこと、大雨で3階の教室から階下まで雨水が流れ込み、後始末に追われたことなど教室にまつわる思い出や、初代学院長の水野祥太郎先生が入院された際には、同級生と何人かで呼ばれ、大緊張の中「ベッドサイドのリハ」を求められたりもしました。

現在67歳となりましたが、まだ現役として仕事ができることは、学院でお世話になった多くの先生方や、同窓生の支えがあったからこそと心より感謝しています。学院のますます御発展を心より祈願いたします。

理学療法学科

15 期卒業生



佐藤 和敬

川崎リハビリテーション学院が、この度創立50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昭和49年の創立以来「人間をつくる 体をつくる 医療福祉学をきわめる」の精神を心に刻んだ卒業生達によって、理学療法・作業療法の各分野で全国で活躍されています。

引き続き、地域へ日本へ世界へと素晴らしい人材を育て送り出していくことを祈念し、お祝いとさせていただきます。



作業療法学科

16 期卒業生



妹尾 勝利

専門学校川崎リハビリテーション学院の創立50周年にあたり、作業療法学科16期生を代表して心よりお慶び申し上げます。

早いもので、我々16期生も卒後30年以上が経過し、現役の作業療法士としての人生も残りの方が短くなってしまいました。しかしながらここまで来れましたのも、故明石謙先生、井上桂子先生や東嶋美佐子先生、そして諸先生方に、時には親身に時には厳しくご指導いただいたお陰であると改めて感謝申し上げます。私の作業療法士としての根幹は学生時代にありますので、今後もその教えを胸に教育・研究・臨床に従事して参ります。

最後に、専門学校川崎リハビリテーション学院の益々のご発展をお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

卒業生の声

理学療法学科

20期卒業生



松田 英希

卒業後は倉敷市内の病院で勤務し、2007年から学院に在籍しています。「中の人」目線で学院の今をとりとめなく書き連ねます。

学内でまず目に入るのは、私服で過ごす学生です。髪色も自由。古き良き時代をご存知の諸先輩方は驚かれることでしょう。

講義や実習は主体的な学びに導くよう工夫を凝らしています。

硬い机をベッド代わりに実技練習をしたのも今は昔。十分な数の快適なベッドが並びます。そこは綺麗な新校舎の一室。ふと見ると、古い木の階段と、虚飾を排した平行棒。旧リハセンターPT室で患者さんを支えた器具が、今は学院で学生の成長を見守っています。

「人間をつくる」を極めるため、試行錯誤は続きます。歴史に抱かれながら、変化を恐れず。

作業療法学科

20期卒業生



里見 史義

創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

私は20期生で、作業療法学科長の常久さんとは同期になります。寄稿にあたり日ごろの感謝も込め、煌びやかで納得感が得られる学院エピソードをなにか一つ紹介したい！と意気込んでみたものの、30年前の記憶に優劣など付くはずもなく・・・思い起こされるのは「怒涛のスケジュール感」と、多忙や緊張の中にもほんの少し楽しみを見出し続けた「クラスメートとの団結力？若さ？」(笑)。そして思い出の締めは、いつも満面の笑みで乾杯の音頭を取る妹尾勝利先生の姿。私たちは先生が初担任のクラスです。卒後も各地で開催される同窓会では、その度に乾杯の音頭をお願いしています。また逢いたいですね。

最後になりましたが、母校の今後ますますの発展を祈念いたします。



作業療法学科

25 期卒業生



竹川 麻由美
(旧姓 大村)

創立50周年を迎えられますことを、心よりお祝い申し上げます。
私が在学していた頃は、PT学科、OT学科ともにほぼ女子生徒でした。他県から集まった仲間と過ごす日々はあっという間でした。テスト前には、仲間と夜遅くまで勉強し、語呂合わせなど考えたものでした。文化祭ではカラオケ大会に出場したり、タイタニックの出し物をしたり、今でも仲間と笑いながら話せる思い出がたくさんあります。もちろんOTになるための勉学や実習も忘れられず、実習中、壁に「私はOTになる！」と紙を貼って乗り切れたことは今の自分に繋がって、先生方に感謝しています。

最後に、今後もより一層、貴学院が発展し、未来のリハビリテーションを担う立派な療法士を育成していただけることを期待しております。



理学療法学科

30 期卒業生



岡田 有司

この度は、学院が創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

さて、私は学院から卒業して20年が経ち、現在川崎医科大学附属病院で勤務し、臨床・教育・研究に励んでいます。在学中はさまざまな思い出ができましたが、特に鮮明に覚えていることがあります。それは、故明石謙先生が骨標本をもちながら、震える手でチョークを持ち、教壇に立っていたことです。その当時は、「先生大丈夫かなあ」という思いでしたが、今思えば教育に対する熱意・姿勢は計り知れないものだと思っています。卒業から20年、私は教育の重要性を痛感しながら、同僚・後輩たちと汗をかきながら日々過ごしています。

末筆ながら、学院の一層の発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

卒業生の声

作業療法学科

30 期卒業生



平林 早也果
(旧姓 山田)

50周年、おめでとうございます。

右も左も分からない高卒の私に、学院に関わる全ての方が社会人になるための礼儀や心構えなど一から教えていただきました。私は寮に入り先輩や同級生達と共同生活の中で、勉強に対する姿勢や集団生活の大切さを学びました。附属病院の見学や実習ではどの先生も患者様に対して真摯に向き合われる姿に、私は感激し憧れを抱いていました。

卒業して18年が経とうとしています。学院で学んだ様々な医療に関する知識と熱意と優しさが、今の臨床での私の原動力となっています。最後まで根気強く一心に私達を育てていただき感謝しております。そして、素敵な人たちとの出会いを沢山ありがとうございました。

今後益々の学院のご発展をご祈念いたします。

作業療法学科

34 期卒業生



今若 康久

この度は、専門学校川崎リハビリテーション学院の創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

在学中の思い出は、1年の基礎作業学実習で七宝焼き作成の際、焼いた七宝を取り出すときにあまりに熱くて落としてしまい、床を溶かしてしまったこと、籐細工が苦手で全く形にならず、先生に協力していただきなんとか作成できたこと、3年の長期実習で学院の先生に何回も来ていただき、ご指導いただいたことが思い出されます。3年間は正直大変でしたが、作業療法の持つ奥深さや楽しさ、やりがいを学び、今日の臨床や後輩指導に生きております。

未筆ながら、貴校の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

理学療法学科

35 期卒業生



吉田 耕治

リハビリテーション学院創立50周年、誠におめでとうございます。

私は卒後、川崎医科大学附属病院に就職しました。卒後も学院を感じる毎日です。卒業して久しくなりますが、患者さんに対する態度・技術・知識は学院でご指導いただいた内容が根幹となっております。附属病院ならではかもしれませんが、難渋症例での学院の先生にいただく臨床場面でのご指導や共同研究等、今も学院は身近な学び舎です。また、苦楽を共にした学友とも連絡を取り合っており、それぞれのライフステージが変化しても共に歩んでおります。

同窓会も極力参加しており、今後も在校生・卒業生との繋がりを大切にしながらリハビリテーション学院の同窓生として共に発展していければ幸いに存じます。

理学療法学科

40 期卒業生



藏本 明歩

このたびは、川崎リハビリテーション学院創立50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私の同級生はみんな仲が良く、社会人も面倒見がいい人ばかりでとても恵まれた環境でした。3年間の思い出としては、セミナーの時間にたこ焼きパーティをしたり、体育館で運動をしたり、勉強実習勉強実習の毎日をごしたり、、、嫌で仕方がなかった時期もありましたが、仲間と支え合いかけがえのない時間を共有しました。

コロナ禍やライフステージの変化などで同窓生と会えることはとても減ってしまいましたが、機会があればぜひまた会いたいと思っています。

末筆ですが、川崎リハビリテーション学院の一層のご発展をお祈りします。

卒業生の声

作業療法学科

40 期卒業生

松本 朋美
(旧姓 小川)

学院での生活は忙しい中でも充実して、思い返せば臨床に必要なことばかりだったと感じます。座学や実習を通して、多くのスキルを身に着けることができ、そのおかげで、現在はやりがいを感じながら仕事をする事ができています。

治療や支援を模索して、試行錯誤の毎日ですが、そんな中でも学院で学んだことは、私の仕事の基礎になっています。特に、実習でさまざまな患者さんと関わったことや、先生方から厳しくも丁寧な指導を受けることができたことは大きな財産です。

母校で学んだことを活かしながら、今後も患者さんや社会に貢献していこうと思います。

理学療法学科

41 期卒業生



眞鍋 良太

この度は、川崎リハビリテーション学院の創立50周年を迎えられたことを、心よりお慶び申し上げます。

私が学校に在籍していたのは、約7年前です。学生時代に思い出に残っていることは、当時、土曜日の午前中に組み込まれていたセミナー活動です。セミナーの担当教員とメンバー3人で、毎週、新聞のコラムや本を音読や要約したことを今でもよく覚えています。私は、当時から何かを読むこと、伝えることを苦手としていたため、その時間は、大変でしたが、受け手のことを意識して文章を書くこと、伝えることの大切さを学びました。そのおかげもあり、卒業後は、臨床業務や学術活動を通して、さらに書く・伝える力が養われました。

卒業して、7年が経過しますが、今でも、仲の良い同級生や後輩とゴルフに行くことがあります。当時、7年後にみんなまで遊びに行くとは思っていませんでしたが、ライフスタイルが変化した今でも交流があることをとても嬉しく思います。

今後も川崎リハビリテーション学院でご指導いただいたことや友人を大切にしながら、日々、精進を重ねてまいります。末筆ではございますが、今後の川崎リハビリテーションの発展をお祈りいたします。



作業療法学科

41 期卒業生



倉地 美生
(旧姓 橋本)

創立50周年を迎えられ、誠におめでとうございます。

50周年記念に、これまでを振り返る機会をいただきました。

私の3年間と言えば、毎日のように廊下において、先生を引き留め
ては「先生、先生～、大丈夫でしょうか？不安ですー。」と尋ねて
いたように思います。

実技試験、臨床実習、解剖学実習、生理学実習、骨や筋の口頭試
問…。本当に緊張しました。でも先生方、同じ夢に向かって一緒に
頑張る仲間が支えてくれたから頑張ることができました。そして毎
日充実していて楽しかったな、という思い出ばかりです。

こんな私もあつという間に作業療法士7年目。沢山の患者様・ご
家族様と出会いました。そして様々な生活があることも知りまし
た。学生さんのバイザーもするようになりました。

なりたかった作業療法士として働かせてもらっていることに感
謝し、これからも精進していきたいと思います。

理学療法学科

42 期卒業生



中島 遼

創立50周年おめでとうございます。42期生として、50年という
歴史の礎の一つとなれたことを大変嬉しく思います。

リハビリテーション学院に在籍していた3年間の思い出します
と、私は歳ばかり重ねた未熟者だったため、苦しく厳しいことも多
くありました。しかし教員の皆様の叱咤激励や、同級生たちの明る
くはつらつとした姿に励まされ乗り越えることができました。突然
の級友の訃報もあり、決して一筋縄ではいかない期間でしたが、
様々なことが甘く辛い思い出として心に残っています。

夢を叶えて卒業した者や、志半ばで去ってしまった者の思いを礎
にして、これから先も素晴らしい歴史を築いていただけたら
と願っております。

卒業生の声

作業療法学科

42期卒業生



棗田 晃

この度は、川崎リハビリテーション学院の創立50周年心よりお喜び申し上げます。

在学中のことを思い返すと、医療用語は慣れない言葉ばかりで覚えるために遅くまで残り同級生と勉強したこと、骨や筋の口頭試問では1回目で合格できず落ち込んでいる自分を励ましてくれて、一緒に勉強してくれたことなど、たくさん仲間たちに支えられて乗り越えることができたと思います。私は現在、回復期の病院で勤務しています。礼節など社会人として働く上でも大切なことも学ばせていただき、学校で学んだ3年間は自分にとって糧になっています。

この度このような文章を書かせていただく機会をいただきありがとうございます。改めて創立50周年を迎えられましたことお喜び申し上げます。

理学療法学科

43期卒業生



高橋 晶

この度は、川崎リハビリテーション学院が創立50周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

学院を卒業して5年、当時の苦労した思い出や、やり遂げた達成感は今でも鮮明に覚えています。中でも、入学した直後から見学実習が始まり、事前学習や愛のある赤い文字だらけの事後修正ノートなどを進めながら、骨スケッチで踵骨を靴下のようだとわれ…と大変な思い出がすぐに想起されます。

就職後より、本校で感じた理学療法士のおもしろさ、責任感と充実感を感じながら、日々の臨床に励んでいる最中です。今後も、学院理念である「人間をつくる」ということを強みにしていきたいと願っております。

末尾にあたり、学院の更なる発展を祈念しまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



作業療法学科

43 期卒業生



梶尾 風香
(旧姓 岩地)

専門学校川崎リハビリテーション学院 創立50周年 誠におめでとうございます。伝統あるリハビリテーション学院で充実した学生生活を送れたことを非常に光栄に思います。

現在私は、川崎医科大学附属病院で作業療法士として勤務しております。たくさんの患者さんに関わらせていただき、忙しく毎日を送っております。学生の時の思い出として残っていることは、3年時の学外実習です。半年間の実習は初めてのことばかりで非常に苦労しましたが、学院の先生やバイザーの先生方に支えられ、乗り越えることができたと思います。振り返ってみると、できないことばかりでしたが、自分の作業療法士人生においてとてもよい経験になったと思います。学生の時の経験を生かしながら日々の臨床にも従事したいと思います。

作業療法学科

44 期卒業生



正成 健至郎

この度は、専門学校川崎リハビリテーション学院 創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私は44期生として専門学校川崎リハビリテーション学院に入学しました。入学当時は初めて聞く言葉や初めて体験する実技を覚えることは大変でしたが、先生方の熱心な指導の下、友人と切磋琢磨して乗り越えたことは今でも忘れられない思い出ですし、就職した現在も活かされていると思います。

末筆ながら、専門学校川崎リハビリテーション学院の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

卒業生の声

理学療法学科

45期卒業生

掛屋 咲葵

超急性期から回復期、外来リハビリテーションを実施している病院に併設している学院では、1年目から充実した実習が経験できる貴重な学校だなと感じます。3年間は多忙な日々でしたが、仲間と協力・相談することが多く充実した学校生活を送ることができました。また、講師の方は現役のセラピストで知識や技術、人間性を学ぶことが多かったです。



私たちの代は3年生の時にCOVID-19の影響により院外実習が一部中止になり国家試験の勉強は自宅学習になりました。最後の1年間で頑張りがれたのも仲間や講師の方のサポートのおかげだなと思います。

作業療法学科

45期卒業生



宇野 柊
(旧姓 濱家)

私は川崎リハビリテーション学院を卒業し、作業療法士として4年目になります。

現在は、脊髄損傷や多発外傷等の疾患を急性期から回復期にかけて担当させていただいております。どの疾患を担当するとしても、体の機能や構造が理解できていないと難しい職業だと感じますが、やりがいのある仕事だとも思います。

学生の間は、自身が働いているイメージが持てない方もいるとは思いますが、学生の内に座学で基礎を学んでおくことは非常に大切なことだと思います。大変だとは思いますが、楽しんで学習に励んでください。

理学療法学科

46期卒業生



小倉 鈴菜

この度は、川崎リハビリテーション学院創立50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

私が入学したのは2019年でした。2年生の頃、COVID-19により学生生活は一変しました。授業はオンラインになり、実技練習や実習も制限されました。その中で、できるだけ私たちが安全に学べるよう先生方がご尽力してくださいました。そして無事国家試験を合格し、現在理学療法士として働くことができています。対面に関わる時間が少なかったからこそ、人との関わりが大切だということが仕事でも生きていると思います。

未筆ながら、川崎リハビリテーション学院の一層のご発展とご活躍をお祈りいたします。



作業療法学科

46期卒業生



山室 里歩

現在、私は作業療法士 二年目で急性期の病院に勤めています。思い返せば学生の頃はコロナ禍であり、学校に行ける機会が少なかったですが、その中でも友人と徹夜でテスト勉強をしたり、休日は遊びに行ったりと充実した学生生活を送れたと思います。勉強や実習は得意な方ではなかったため大変に感じることもありましたが、作業療法士になり、患者さんに感謝されたとき、患者さんの状態が良くなったときなど頑張った良かったと思える瞬間に立ち会い、改めて作業療法士になって良かったなと日々感じています。

程よく息抜きをしながら日々を楽しみつつ一緒に切磋琢磨していきましょう。同じセラピストとして働くことができる日を楽しみにしています。

卒業生の声

理学療法学科

47期卒業生



田中 大地

創立50周年おめでとうございます。

私は2022年度に卒業し、現在は一年目として病院で勤務しています。日々、臨床業務に取り組んでいく中で、わからないことやうまくいかないことの連続で、悩むことも多々あります。しかし、先輩方から手厚いご指導をいただいたり、自身で自己研鑽しながら目の前の患者さんのためには何ができるかを考え、試行錯誤しながら向き合い、「ありがとう」と心から感謝されることにやりがいを感じています。そんな今の自分があるのも、この学校の先生方から知識・技術だけでなく、学ぶ姿勢を厳しいながらも優しく教えていただいたからだと感じています。私も、先生方のようになれるよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。

作業療法学科

47期卒業生



儀山 ひなた

川崎リハビリテーション学院創立50周年を心よりお祝い申し上げます。

私達の学年はコロナによって入学から3年間オンライン授業となり実技練習や実習も行えず、思い描いていた学生生活とはなりません。テストや課題の多さに何度も心が折れかけるときもありましたが、私のそばには一緒に支え合い明るく笑顔にしてくれた最高の仲間がいました。仲間の存在があったからこそ3年間頑張ることができました。学院で過ごした3年間は充実した楽しい思い出でいっぱいです。

私は現在、急性期から回復期まで幅広く様々な疾患を担当させていただいています。働く中で喜びを感じる瞬間もあれば思い悩むこともあります。どんな状況でも笑顔を絶やさず、先輩方から多くのことを学び日々成長していきたいと思っています。

末筆ながら、川崎リハビリテーション学院のより一層のご発展を心よりお祈り申し上げます。

理学療法学科

48 期卒業生



風早 夏帆

創立50周年おめでとうございます。

卒業生の一人として母校の長く深い歴史の中の一員になれたことに感謝しつつ、今後のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

私達48期生は、COVID-19の影響で、入学当初は自宅学習が中心であり、同期と親交を深める機会もなかったため、疑問や悩みを相談することもできず不安な日々を過ごしていました。そのような状況の中、学院の先生方は、私達の質問や不安に親身になって対応し、支援し続けてくださいました。厳しい状況を乗り越え、国家試験に合格することができたのは、同じ志をもった素晴らしい友達存在と先生方の温かい支援のお陰だと思っています。

これからも学院の理念に則り、リハビリテーションの専門家としての使命に向けて努力・精進を続けていきたいと思っています。

作業療法学科

48 期卒業生



大川 桜奈

50周年おめでとうございます。

学院では、先生方に時には親身に、時には厳しくご指導いただき、多くの学びを得ることができました。作業療法士に必要な知識・技術の他、社会人としての礼儀・マナー等、非常に勉強になる3年間でした。学生時代では、2年生の時に先生方による模擬患者での臨床実習で、初めての症例の評価をさせていただいたとき、リスク管理や、痛みの確認、小さな変化にも気づける観察力が難しく、大変だったことを覚えています。上手くいかず、失敗し、先生方からのご指導がありましたが、失敗から学び、その先生方からのご指導があったおかげで、今でも鮮明にその時々を覚えています。この学院で学んだことを活かし、これからも頑張っていきたいです。

ますますのご発展をお祈りします。

川崎学園祭

川崎リハビリテーション学院の学生は少人数ながらも、川崎学園祭のイベントに参加しています。COVID-19によりオンライン学園祭となった2021年の公式ポスター採用、2022年の仮装パフォーマンス優勝、2024年の統一テーマ採用など、学園祭を盛り上げる原動力となっています。



2009年



2019年



2022年



2023年



● 公式ポスター原画



2007年(第33回)
理学療法学科1年
植野友哉



2008年(第34回)
理学療法学科2年
植野友哉



2021年(第47回)
理学療法学科2年
経種ひより

学院の今

学科紹介



骨のスケッチ、口頭試問、卒業試験などは今も変わらず学生に「壁」として立ちはだかっています



学院の伝統である実習や演習を通じた経験の蓄積を重視したカリキュラム編成を行っています



理学療法学科



最近療法士が用いるようになった超音波画像評価の導入など時代に合わせて実習の内容も変化させています



免許取得後の療法士に求められる自学自修の態度を個々の学生が身につけられるよう促しています



対象者の尊厳ある自立への援助に向けて

理学療法は、身体に障害がある人に対し、基本的な動作能力の再獲得を目指して、運動療法・物理療法・日常生活動作練習などを行います。

よりよい治療を提供するため、解剖学・運動学を基礎とした身体の運動に関する幅広い知識の修得が求められます。

学科紹介



今も続く骨や筋の口頭試問を通じて覚えることに慣れていきます



様々な活動を通じて必要な心身機能、交流や楽しみなど心理面への影響を体験します



作業療法学科



装具作成や吸引などの技術に触れる経験が卒後の幅を広げてくれます



実習による学びを重視する伝統は引き継ぎつつ、診療参加型臨床実習を導入しています



その人の希望にあわせて

作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療・保健・福祉・教育・職業などの領域で行われる作業に焦点を当てた治療・指導・援助です。

作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指します。

年間行事



- 入学式
- 1 学期授業開始
- 新入生オリエンテーション
- 評価実習（～7月）
- 入学時合同研修
- 解剖学実習Ⅰ（～10月）



- 病院実習開始式
- 臨床実習Ⅲ（～9月）

夏季休業

- かわさき 夏の子ども体験教室
- オープンキャンパス
- 生理学実習
- なつやすみ リハビリのお仕事体験



3校合同オープンキャンパス
3校合同入試説明会



4月

5月

6月

7月

8月

9月

- オープンキャンパス



- 2 学期授業開始
- 解剖学実習Ⅱ（～12月）
- 骨口頭試問
- 治療学実習（～3月）



- 1 学期定期試験
- オープンキャンパス
- 3校合同オープンキャンパス
- 就職講座

※●は写真を掲載しています



- 川崎学園祭
オープンキャンパス
- 明石賞



- 国家試験壮行会
- 臨床実習指導者会議
国家試験

10月

11月

12月

1月

2月

3月

3学期授業開始
卒業試験



2学期定期試験
冬季休業

- 卒業試験



- 筋口頭試問
精神科短期実習



- 3学期定期試験
学年末休業
- 卒業証書授与式
3校合同オープンキャンパス

学内風景

学校生活



ラウンジ



図書室



会議等



進級判定委員会



職員室



運営委員会



事務室



ボランティア・同窓会

ボランティア活動



岡山県障害者スポーツ大会「輝いてキラリンピック」



おかやまマラソン



同窓会総会



同窓会総会研修会 2023年7月22日開催



同窓会総会2019年集合写真

学院案内パンフレットの変遷 (その2)

● 3校合同キャンパスガイド



2017年



2018年



2021年



2024年



2025年

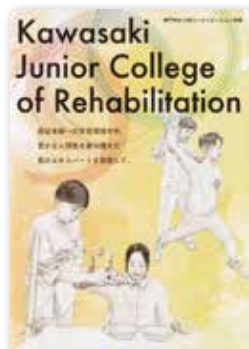
● リハビリテーション学院リーフレット



2014年



2018年



2022年



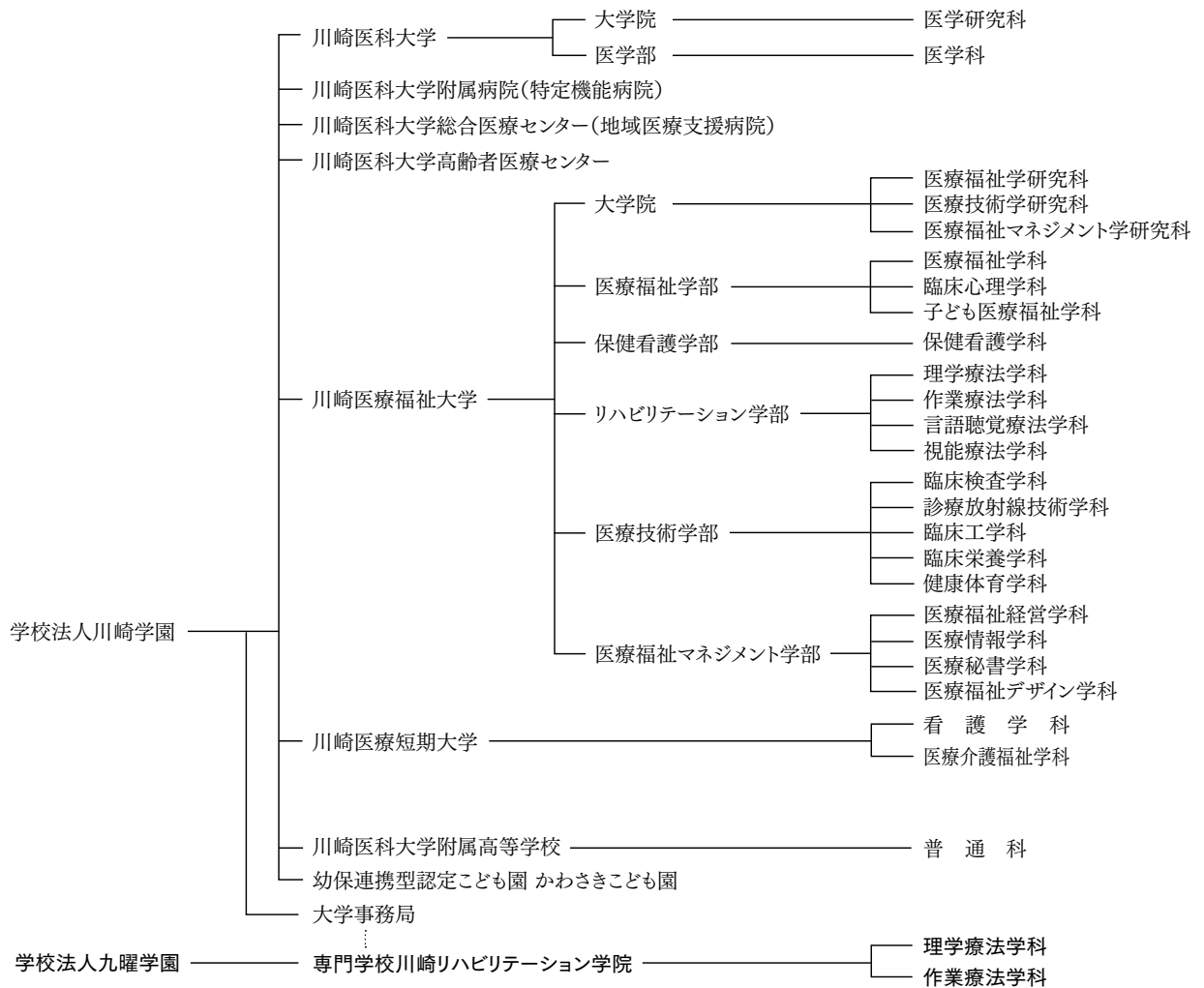
2023年



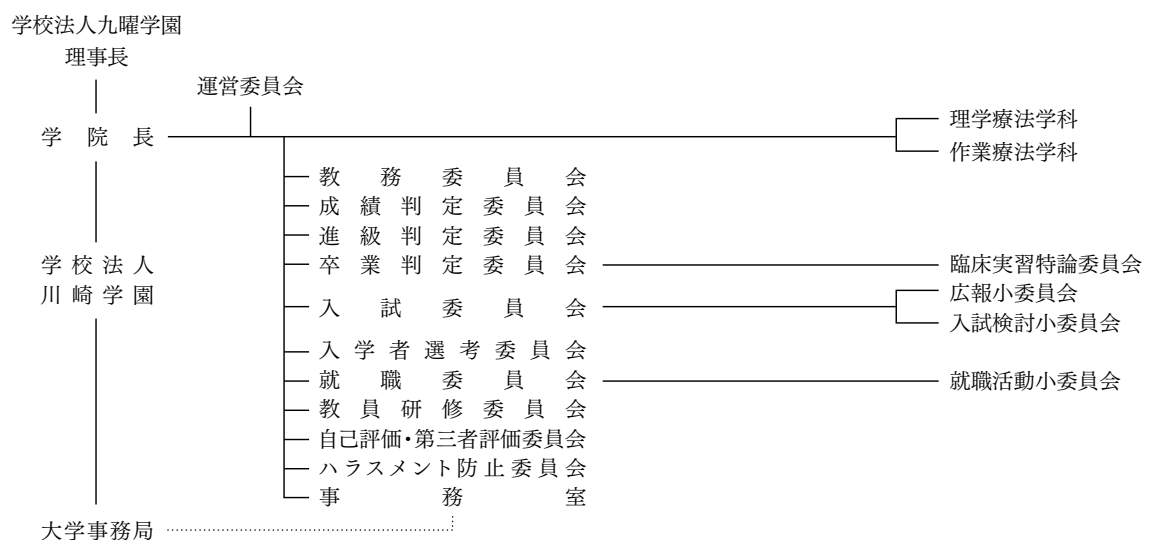
2024年

資料編

川崎学園組織図



川崎リハビリテーション学院運営組織図



歴代学院長



水野祥太郎

1974.4~1984.3



明石 謙

1984.4~2004.3



椿原 彰夫

2004.4~2014.3



花山 耕三

2014.4~

歴代副学院長

明石 謙	1975. 4~1984. 3
伊勢 眞樹	1994. 4~1998. 3
椿原 彰夫	1998. 4~2004. 3
花山 耕三	2013. 9~2014. 3

歴代教務主任

佐藤 哲也 (事務)	1974. 4~1985. 3
秋山 隆義 (事務)	1985. 4~1991. 3
森 綾夫 (事務)	1991. 4~1997. 3
中村 通郎 (事務)	1997. 4~2002. 3
桐岡 四郎 (事務)	2002. 4~2004. 3
横田 良允 (事務)	2004. 4~2005. 3
伊藤 恭子 (教員)	2005. 4~2011. 3
矢吹 眞弓 (教員)	2011. 4~2018. 3
村上 朋彦 (教員)	2018. 4~

歴代事務長

山室 忠男	1974. 4~1974.11
佐藤 哲也	1974.11~1987. 3
秋山 隆義	1987. 4~1991. 3
森 綾夫	1991. 4~1997. 3
中村 通郎	1997. 4~2002. 3
桐岡 四郎	2002. 4~2004. 3
横田 良允	2004. 4~2009. 3
三宅 治身	2009. 4~2011. 3
森 啓介	2011. 4~2014. 3
野田 洋二	2014. 4~2017. 3
難波 徹	2017. 4~2023. 3
佐藤 友美	2023. 4~

歴代学科長 (1999年以降)

<理学療法学科>

伊藤 恭子	1999. 4~2005. 3
矢吹 眞弓	2005. 4~2011. 3
村上 朋彦	2011. 4~2018. 3
菅野 稔	2018. 4~

<作業療法学科>

大塚 和子	1999. 4~2007. 3
常久謙太郎	2007. 4~2008. 3 (学科長代行)
常久謙太郎	2008. 4~

歴代副学科長 (1999年以降)

<理学療法学科>

矢吹 眞弓	1999.10~2005. 3
村上 朋彦	2005. 4~2011. 3
菅野 稔	2011. 4~2018. 3
松本 晋輔	2018. 4~

<作業療法学科>

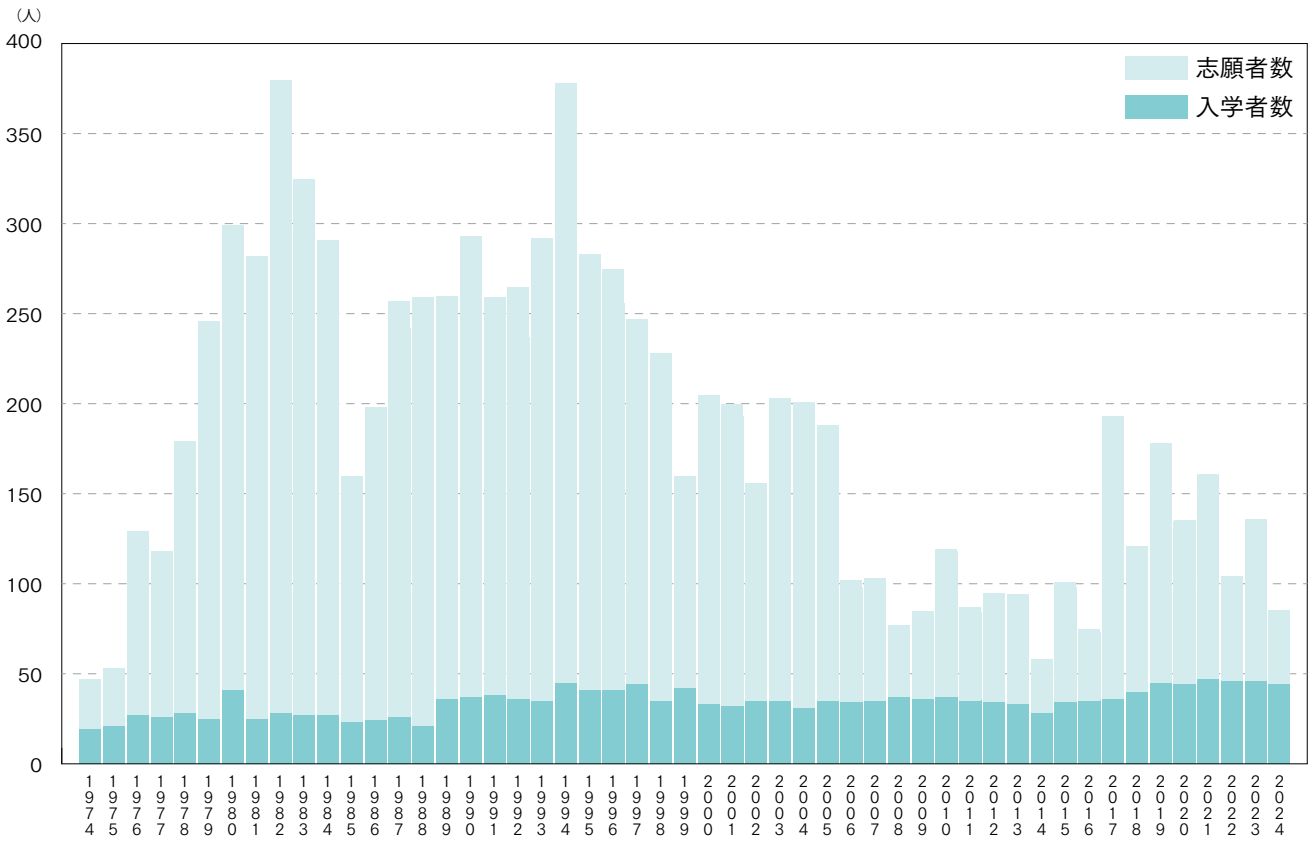
小林 亮太	1994. 4~2001. 3
常久謙太郎	2004. 5~2007. 3
森川 芳彦	2008. 4~

入学定員・志願者数・入学者数

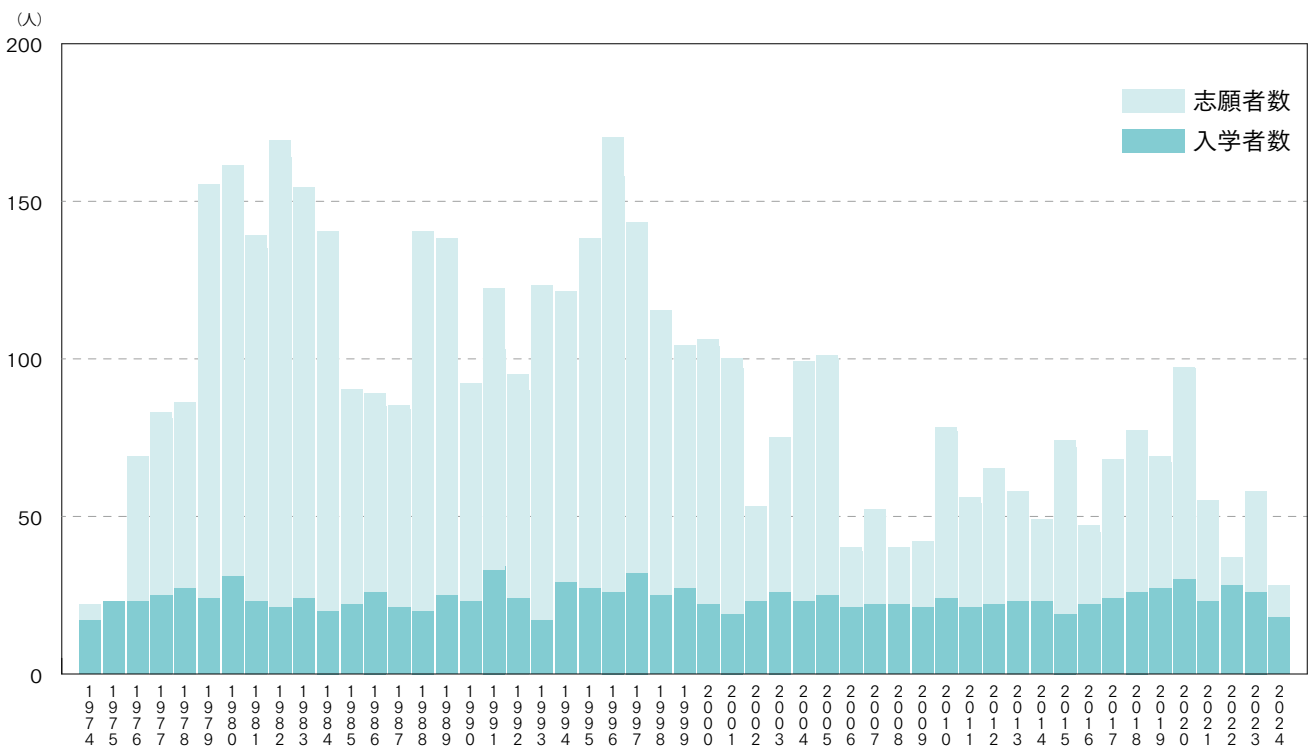
(単位:人)

年度	理学療法学科			作業療法学科			入学者数 合計
	入学定員	志願者数	入学者数	入学定員	志願者数	入学者数	
1974 (S49)	20	47	19	20	22	17	36
1975 (S50)	20	53	21	20	23	23	44
1976 (S51)	20	129	27	20	69	23	50
1977 (S52)	20	118	26	20	83	25	51
1978 (S53)	20	179	28	20	86	27	55
1979 (S54)	20	246	25	20	155	24	49
1980 (S55)	20	299	41	20	161	31	72
1981 (S56)	20	282	25	20	139	23	48
1982 (S57)	20	380	28	20	169	21	49
1983 (S58)	20	325	27	20	154	24	51
1984 (S59)	20	291	27	20	140	20	47
1985 (S60)	20	160	23	20	90	22	45
1986 (S61)	20	198	24	20	89	26	50
1987 (S62)	20	257	26	20	85	21	47
1988 (S63)	20	259	21	20	140	20	41
1989 (H 1)	30	260	36	20	138	25	61
1990 (H 2)	30	293	37	20	92	23	60
1991 (H 3)	30	259	38	20	122	33	71
1992 (H 4)	30	265	36	20	95	24	60
1993 (H 5)	30	292	35	20	123	17	52
1994 (H 6)	30	378	45	20	121	29	74
1995 (H 7)	30	283	41	20	138	27	68
1996 (H 8)	30	275	41	20	170	26	67
1997 (H 9)	30	247	44	20	143	32	76
1998 (H10)	30	228	35	20	115	25	60
1999 (H11)	30	160	42	20	104	27	69
2000 (H12)	30	205	33	20	106	22	55
2001 (H13)	30	200	32	20	100	19	51
2002 (H14)	30	156	35	20	53	23	58
2003 (H15)	30	203	35	20	75	26	61
2004 (H16)	30	201	31	20	99	23	54
2005 (H17)	30	188	35	20	101	25	60
2006 (H18)	30	102	34	20	40	21	55
2007 (H19)	30	103	35	20	52	22	57
2008 (H20)	30	77	37	20	40	22	59
2009 (H21)	30	85	36	20	42	21	57
2010 (H22)	30	119	37	20	78	24	61
2011 (H23)	30	87	35	20	56	21	56
2012 (H24)	30	95	34	20	65	22	56
2013 (H25)	30	94	33	20	58	23	56
2014 (H26)	30	58	28	20	49	23	51
2015 (H27)	30	101	34	20	74	19	53
2016 (H28)	30	75	35	20	47	22	57
2017 (H29)	30	193	36	20	68	24	60
2018 (H30)	30	121	40	20	77	26	66
2019 (R 1)	40	178	45	25	69	27	72
2020 (R 2)	40	135	44	25	97	30	74
2021 (R 3)	40	161	47	25	55	23	70
2022 (R 4)	40	104	46	25	37	28	74
2023 (R 5)	40	136	46	25	58	26	72
2024 (R 6)	40	85	44	25	28	18	62

理学療法学科



作業療法学科



入学生の出身都道府県

1974～2024年度

(単位:人)

東北			
	理学	作業	計
青森	2	1	3
岩手	0	0	0
宮城	1	1	2
秋田	0	0	0
山形	0	2	2
福島	1	5	6

北海道			
	理学	作業	計
北海道	6	8	14

中部			
	理学	作業	計
新潟	4	3	7
富山	4	5	9
石川	3	0	3
福井	5	1	6
山梨	1	3	4
長野	8	3	11
岐阜	15	5	20
静岡	15	18	33
愛知	12	5	17

中国			
	理学	作業	計
鳥取	44	43	87
島根	58	64	122
岡山	686	490	1,176
広島	284	153	437
山口	73	43	116

関東			
	理学	作業	計
茨城	2	2	4
栃木	1	0	1
群馬	3	1	4
埼玉	2	2	4
千葉	2	2	4
東京	10	6	16
神奈川	11	7	18

四国			
	理学	作業	計
徳島	22	9	31
香川	44	30	74
愛媛	87	40	127
高知	9	13	22

近畿			
	理学	作業	計
三重	7	4	11
滋賀	9	7	16
京都	21	16	37
大阪	25	13	38
兵庫	115	74	189
奈良	3	3	6
和歌山	7	6	13

九州・沖縄			
	理学	作業	計
福岡	54	49	103
佐賀	9	10	19
長崎	26	17	43
熊本	16	12	28
大分	12	16	28
宮崎	4	8	12
鹿児島	16	8	24
沖縄	6	7	13

全国合計		
理学	作業	計
1,745	1,215	2,960

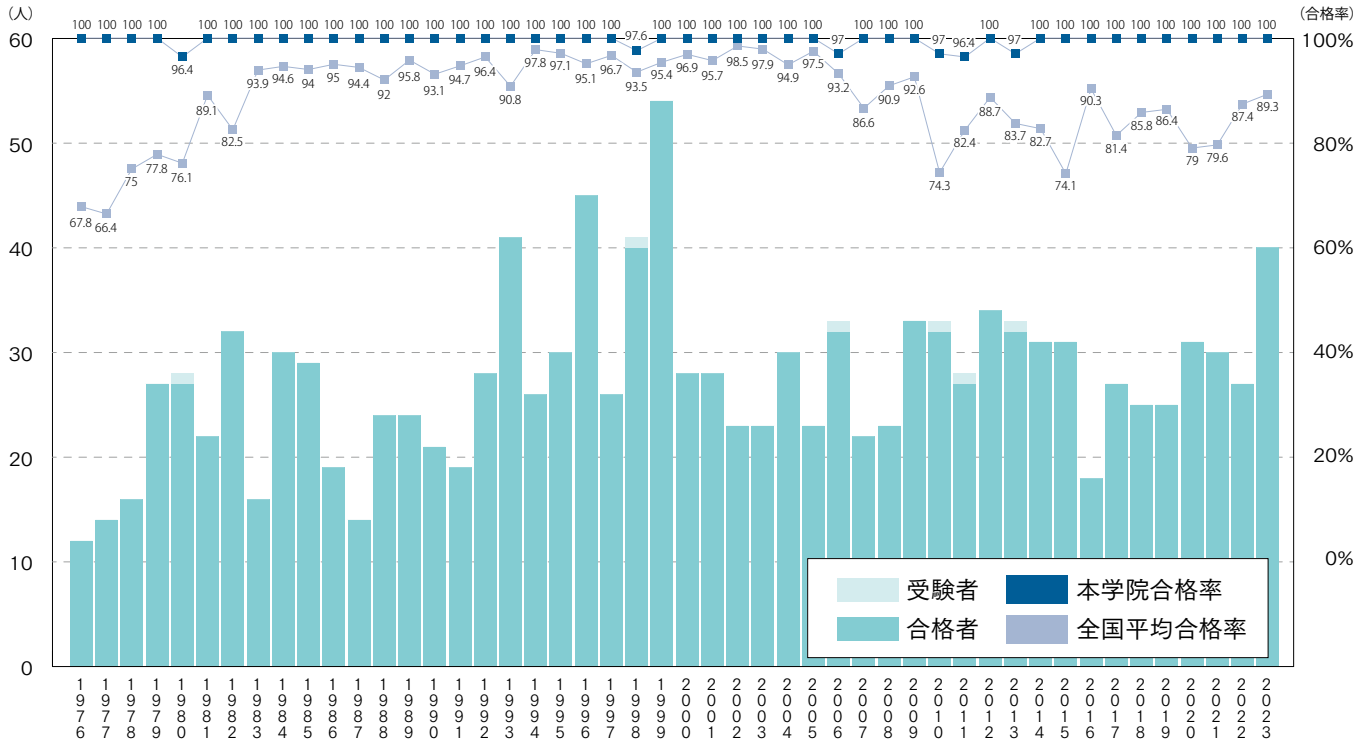
卒業生数

(単位:人)

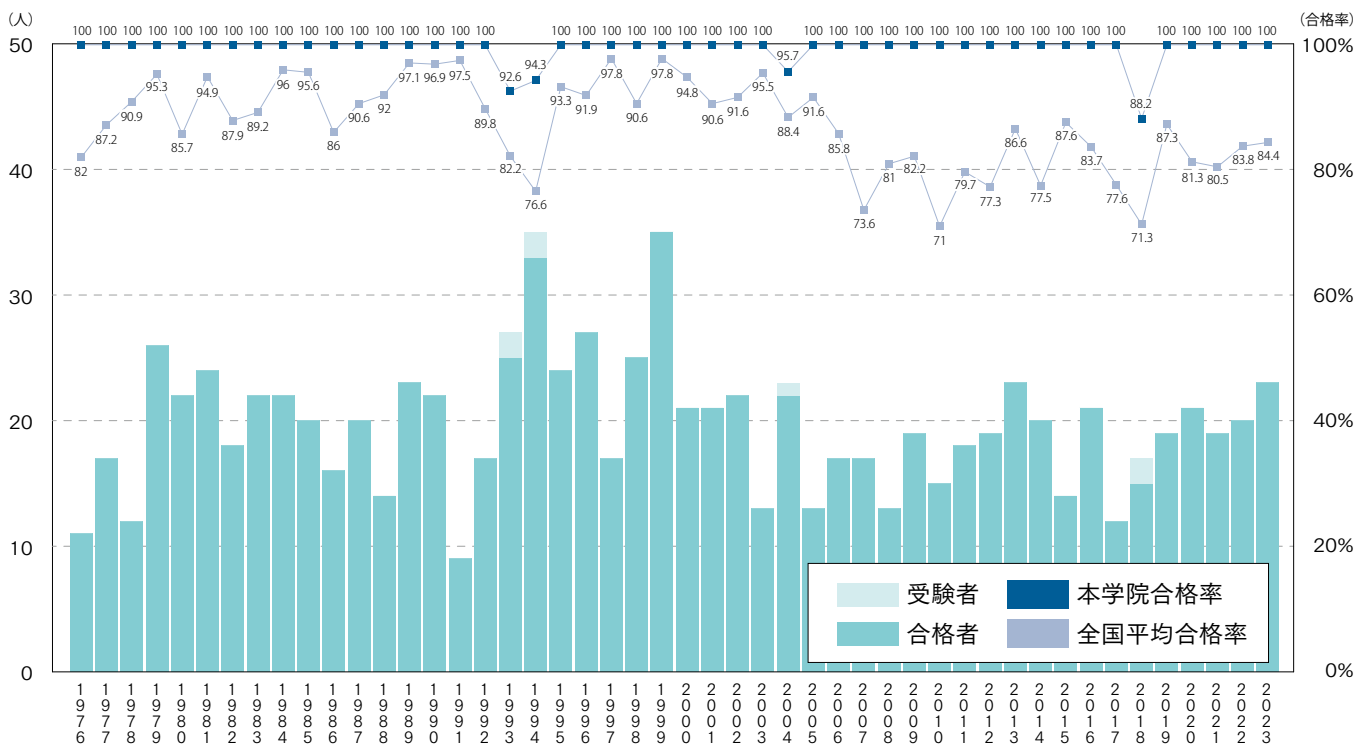
年度	理学療法学科	作業療法学科	計
1976 (S51)	12	11	23
1977 (S52)	14	17	31
1978 (S53)	16	12	28
1979 (S54)	27	26	53
1980 (S55)	28	22	50
1981 (S56)	21	24	45
1982 (S57)	32	18	50
1983 (S58)	16	22	38
1984 (S59)	30	22	52
1985 (S60)	29	20	49
1986 (S61)	19	16	35
1987 (S62)	14	20	34
1988 (S63)	24	14	38
1989 (H 1)	24	23	47
1990 (H 2)	21	22	43
1991 (H 3)	19	9	28
1992 (H 4)	28	17	45
1993 (H 5)	41	27	68
1994 (H 6)	26	33	59
1995 (H 7)	30	22	52
1996 (H 8)	45	27	72
1997 (H 9)	26	17	43
1998 (H10)	41	25	66
1999 (H11)	53	35	88
2000 (H12)	28	21	49
2001 (H13)	28	21	49
2002 (H14)	23	22	45
2003 (H15)	23	13	36
2004 (H16)	30	23	53
2005 (H17)	23	12	35
2006 (H18)	33	17	50
2007 (H19)	21	17	38
2008 (H20)	23	13	36
2009 (H21)	33	19	52
2010 (H22)	33	15	48
2011 (H23)	27	18	45
2012 (H24)	33	19	52
2013 (H25)	33	23	56
2014 (H26)	30	20	50
2015 (H27)	31	14	45
2016 (H28)	18	21	39
2017 (H29)	27	12	39
2018 (H30)	25	17	42
2019 (R 1)	25	17	42
2020 (R 2)	31	21	52
2021 (R 3)	31	19	50
2022 (R 4)	26	20	46
2023 (R 5)	40	23	63
計	1,311	938	2,249

国家試験の状況

● 理学療法学科



● 作業療法学科



卒業生の就職先

2014～2023年度

関東	
埼玉	上尾中央総合病院
東京	品川リハビリテーション病院 有隣病院
神奈川	鶴巻温泉病院 平塚共済病院

中部			
富山	アルペンリハビリテーション病院	山梨	甲州リハビリテーション病院
静岡	掛川東病院	愛知	愛知県済生会リハビリテーション病院

近畿				
京都	長岡ヘルスケアセンター	洛和会音羽リハビリテーション病院		
大阪	島田病院	八尾はあとふる病院	みどりヶ丘病院	大阪たつみりハビリテーション病院
	巽病院	医誠会病院	摂津医誠会病院	高島整形外科
兵庫	神野病院	西宮協立リハビリテーション病院	明石同仁病院	高岡病院
	吉田病院	藤田整形外科スポーツクリニック	西宮渡辺病院	明石リハビリテーション病院
	尼崎だいもつ病院	阪神リハビリテーション病院	石川病院	製鉄記念広畑病院
	広畑センチュリー病院	ツカザキ病院	ツカザキ記念病院	きょう整形外科医院
恒生病院	介護老人福祉施設サンライズ	特別養護老人ホーム桜谷荘		
和歌山	田辺中央病院			

中国			
鳥取	ウエルフェア北園渡辺病院	皆生温泉病院	
島根	安来第一病院		
岡山	学校法人川崎学園（川崎医科大学附属病院／川崎医科大学総合医療センター）	岡山リハビリテーション病院	光生病院
	岡山博愛会病院	倉敷平成病院	岡山済生会総合病院
	倉敷リハビリテーション病院	コープリハビリテーション病院	しげい病院
	岡山協立病院	岡山旭東病院	玉島中央病院
	岡村一心堂病院	岡山中央病院	岡山中央奉還町病院
	岡山光南病院	梶木病院	倉敷スイートホスピタル
	柴田病院	日本原病院	万成病院
	青木内科小児科医院	心臓病センター榊原病院	倉敷中央病院
	倉敷第一病院	プライムホスピタル玉島	津山中央病院
	笠岡第一病院	村上脳神経外科内科	こころの医療たいようの丘ホスピタル
	岡山労災病院	吉備高原医療リハビリテーションセンター	慈圭病院
	山陽病院	あおき整形リハビリクリニック	藤田病院
	岡山ハートクリニック	玉島病院	倉敷成人病センター
	新倉敷メディカルスクエア	倉敷仁風ホスピタル	児島中央病院
	荘内クリニック	井原第一クリニック	長野病院
	長谷川記念病院	草加病院	赤磐医師会病院
岡山市立市民病院	介護老人保健施設倉敷藤戸荘	フラフィデイサービス	
こうのしま介護老人保健施設	ケアハウス四季が丘		
広島	福山リハビリテーション病院	沼隈病院	脳神経センター大田記念病院
	日本鋼管福山病院	水永リハビリテーション病院	福山第一病院
	広島中央リハビリテーション病院	土谷総合病院	興生総合病院
	寺岡記念病院	のぞみ整形外科スタジアム前クリニック	浅田心療クリニック
	荒木脳神経外科病院	五日市記念病院	のぞみ整形外科ヒロシマ
	呉共済病院	呉中通病院	呉整形外科クリニック
	因島医師会病院	福山整形外科クリニック	岩崎整形外科
	三次地区医療センター	庄原赤十字病院	広島県立障害者リハビリテーションセンター
	亀川病院	東広島医療センター	介護老人保健施設ビーブルかなべ
山口	岩国市医療センター医師会病院	山口リハビリテーション病院	徳山中央病院
いしい記念病院			
福山	福山記念病院		
	西広島リハビリテーション病院		
	なんば医院		
	広島はくしま病院		
	広島共立病院		
	公立みつぎ総合病院		
	春日クリニック		
	真愛病院		
	介護老人保健施設愛生苑		
	周南記念病院		

四国		
香川	橋本病院	こころの医療センター五色台
	岩本病院	高松赤十字病院
	三豊総合病院	三豊市立西香川病院
愛媛	伊予病院	おおぞら病院
	松山リハビリテーション病院	道後温泉病院
	済生会今治第二病院	吉野病院
	西条市民病院	西条愛寿会病院
	大洲中央病院	愛媛医療センター

九州・沖縄		
福岡	千鳥橋病院	桜十字福岡病院
	原病院	誠愛リハビリテーション病院
	福岡徳洲会病院	小倉リハビリテーション病院
佐賀	口石病院	宮崎 平田東九州病院
鹿児島	霧島整形外科病院	沖縄 ロクト整形外科クリニック

（施設名は就職時の名称で掲載しています）

学院の教職員



現教職員名簿

職名	氏名	就任年月
学院長	花山 耕三	H25. 9
教務主任・教授 (PT)	村上 朋彦	H10. 4
学科長・教授 (OT)	常久謙太郎	H 8. 4
学科長・准教授 (PT)	笹野 稔	H12. 4
副学科長・准教授 (OT)	森川 芳彦	H12. 4
副学科長・准教授 (PT)	松本 晋輔	H15. 4
講師 (OT)	阿部菜海子	H19. 4
講師 (PT)	松田 英希	H19. 4
講師 (PT)	花崎 加音	H24. 8
講師 (OT)	山下 徹郎	H25. 4
講師 (OT)	有安 芽衣	H25. 4
講師 (OT)	小林 伸江	H26. 4
講師 (OT)	松本 琢磨	H26. 4
講師 (PT)	大西 重徳	H30. 4
助教 (PT)	河島 隆貴	H31. 4
事務長	佐藤 友美	R 5. 4
事務主任	坂本 陽子	H18. 5
事務職員	長江真理子	R 4. 6
事務職員	伊地知麻美	H13.11
事務員 (派遣)	光島 華織	H24. 6

令和6年4月1日現在

旧教職員名簿

職名	氏名	就任年月	退任年月
学院長	水野祥太郎	S49. 4	S59. 3
学院長	明石 謙	S50. 4	H16. 3
学院長	椿原 彰夫	H10. 4	H26. 3
副学院長	伊勢 眞樹	H 6. 4	H10. 3
教授 (OT)	小林 達也	S49. 4	H 3. 3
教授 (PT)	古米 幸好	S50. 4	H 7. 3
教授 (PT)	伊藤 恭子	S53. 4 H 7. 4	S63. 3 H23. 3
教授 (PT)	矢吹 眞弓	H 9. 1	H30. 3
助教授 (OT)	東嶋美佐子	S52. 4	H 7. 3
助教授 (PT)	渡邊 進	S54. 4	H 7. 3
助教授 (OT)	井上 桂子	S54. 4	H 7. 3
助教授 (PT)	秋田 一郎	S60. 4	H11. 3
助教授 (OT)	日比野慶子	H 3. 8	H 7. 3
助教授 (OT)	大塚 和子	H 8. 4	H19. 3
講師	山野 慶樹	S49. 4	S50. 3
講師 (PT)	紀伊 克昌	S49. 4	S50. 3
講師	鼠尾 祥三	S49. 4	S50. 3
講師	岩本 敬	S49. 4	S51. 6
講師 (OT)	福本 安甫	S50. 4	S54. 3
講師 (OT)	福意 武史	S62. 4	H 9. 3
講師 (PT)	国安 勝司	H 2. 4	H 9. 3
講師 (PT)	高橋 利幸	H 5. 4	H 8. 3
講師 (PT)	千野根勝行	H 5. 8	H 8. 3
講師 (OT)	小林 亮太	H 8. 4	H13. 3
講師 (OT)	花房 由香	H 8. 4	H14. 3
講師 (PT)	柳川 光	H10. 4	H15. 3
講師 (OT)	山田 真澄	H10. 4	H15. 3
講師 (OT)	田中 恵子	H10. 4	H15. 3
講師 (PT)	三宅 裕高	H11. 4	H17. 3
講師 (OT)	千後瀧智子	H14. 4	H24. 3
講師 (OT)	中山みゆき	H15. 4	H25. 3
講師 (OT)	柳澤由利子	H17. 4	H26. 3
講師 (PT)	田中 繁治	H19. 4	H30. 3
講師 (PT)	岡田 裕	H21. 4	R 5. 3
講師 (OT)	笹倉 真由	H21. 5	H25. 8
助教 (PT)	山本 勲	H19. 4	H24. 3
助教 (PT)	児玉 慎吾	R 5. 4	R 6. 3
助手 (PT)	小野 泰正	S52. 4	S55. 3
助手 (OT)	本多 賢光	S54. 4	S55. 3
助手 (PT)	山本 義彦	S55. 4	S57. 3
助手 (OT)	佐藤 真一	S56. 4	S59. 3
助手 (PT)	森田眞千代	S57. 4	S60. 3
助手 (OT)	森邊 紀子	S59. 4	S62. 3
助手 (OT)	満田まゆみ	H 2. 4	H 3. 8
助手 (OT)	妹尾 勝利	H 4. 4	H 9. 3
助手 (PT)	西本千奈美	H 4. 4	H 9. 3
助手 (PT)	佐藤 弘恵	H 5. 4	H 8. 3
助手 (OT)	大江真奈美	H 7. 4	H10. 3
助手 (PT)	福森 珠美	H 8. 4	H11. 3
助手 (PT)	石井 純子	H 9. 4	H12. 3
助手 (PT)	赤井 紀子	H11. 4	H11.10
助手 (PT)	垣内 優芳	H14. 4	H19. 3
副手 (OT)	金治 順子	S53. 4	S54. 3
副手 (OT)	田中 正則	S55. 4	S56. 3
副手 (PT)	石丸 都	S63. 4	H 4. 3
副手 (OT)	石原 英子	H 1. 4	H 2. 3
副手 (OT)	伊藤 智史	H 5. 4	H 7. 3

職名	氏名	就任年月	退任年月
事務長	山室 忠男	S49. 4	S49.11
事務長	佐藤 哲也	S49. 4	S62. 3
事務長	秋山 隆義	S60. 4	H 3. 3
事務長	森 綾夫	H 3. 4	H 9. 3
事務長	中村 通郎	H 8. 4	H14. 3
事務長	桐岡 四郎	H11. 4	H16. 3
事務長	横田 良允	H14. 4	H21. 3
事務長	三宅 治身	H16. 4	H23. 3
事務長	森 啓介	H20. 4	H26. 3
事務長	野田 洋二	H23. 4	H29. 3
事務長	難波 徹	H29. 4	R 6. 3
事務長補佐	能勢貴世志	H 2. 4	H 2. 6
事務長補佐	三宅 章夫	H 3. 4	H 5. 3
事務長補佐	永山 幹男	H 5. 4	H 8. 3
事務長補佐	内田 一正	H 9. 4	H11. 3
事務長補佐	新庄 義彦	H26. 4	H30. 3
事務主任	奥野 勉	S62. 4	H 1. 3
事務主任	出宮 明子	H14.12	H18. 3
事務職員	小川チヨノ	S49. 9	H13. 3
事務職員	村上 一	S50. 6	S55. 3
事務職員	佐藤 友治	S55. 4	S62. 3
事務職員	花田 光夫	H 1. 4	H 2. 3
事務職員	中塚 久美	H 2. 7	H14. 3
事務職員	浅田 麻衣	H17. 4	H24. 9
事務職員	小池 香里	H23. 6	H24. 5
事務職員	片岡めぐみ	H30. 6	R 4. 5
事務員	武部千津江	H13. 4	H15. 3
事務員	浅原 一恵	H15. 1	H15. 7
事務員	佐藤 純子	H16. 4	H17. 3
事務員	三浦 基子	H18. 4	H21. 3
事務員(派遣)	植木 千恵	H18. 4	H18. 9
舎監兼事務	森 正美	S49. 4	S50. 3
寮母	森 静子	S49. 4	S50. 3
舎監	名越マリ子	S50. 5	S51. 3
寮管理人	白神 正直	S51. 4	S59. 3
寮整備員	白神 時子	S51. 4	S59. 3
舎監	光岡 繁一	S59. 4	S62. 3
寮母	光岡 久子	S59. 4	S62. 3
舎監	柚木 磧	S62. 4	H15. 3
寮母	柚木加代子	S62. 4	H13. 4
寮母	中島美智子	H13. 4	H15. 3
舎監	櫻井 亮	H15. 4	H16. 6
寮母	櫻井眞理子	H15. 4	H16. 6
寮母	桜井 芳江	H16. 6	H18. 3

(職名は最終の職名 就任・退任年月は本学院専任期間を表す)

専門学校 川崎リハビリテーション学院創立50周年記念誌

令和6年6月21日 発行

発行 学校法人九曜学園

〒701-0192 岡山県倉敷市松島672番地

TEL 086-464-1179

印刷・製本 西尾総合印刷株式会社

